

宿場浪漫の町

大迫町は



さらに味わい深く

熟成します。

浪漫の町は、四〇〇歳

寛政
元和三年（一六二七）宮守村に狩りに来た南部利直公は大迫の九日町（現在の犬迫保育園周辺）を通る旧遠野街道があまりにも大きく曲がっていることを懸念し「三陸海岸や遠野を結ぶ街道整備の一環として、直線的な新遠野街道を整備して九日町を移し、新たに上町・中町・下町の三町を設け、宿場とすることを命じました。これが宿場町大迫の誕生です。」

平成二十九年はここから四〇〇年…

岩手県

花巻市大迫町

旧遠野街道

九日町

新遠野街道

西暦和暦		大迫のあゆみ	
1590	（天正18年）	大迫領主大迫右近が没落し、その後南部氏領となる。	
1599頃	（慶長4年頃）	南部利直公が金山開発のため、京都の商人田中彦右衛門を大迫代官とする。	
1610	（慶長15年）	南部利直公が岳妙泉寺の整備を始める。	
1617	（元和3年）	南部利直公が大迫の遠野街道を直線的にし、上町・中町・下町の三町を整備する。 宿場町大迫の誕生	
江戸年間		南部葉と呼ばれる特産の葉たばこ栽培が盛んになる。	
江戸年間		大飢饉で多くの餓死者が出る。供養するためあんどんまつりが始まる。	
明治年間		大迫葉たばこ専売所が設置される。	
明治年間		大迫のたばこ業者達が製糸工場を創業する。	
1918	（大正7年）	宮沢賢治が地質調査で大迫町を訪れ、石川旅館を常宿とする。	
1947	（昭和22年）	キャサリン・アイオン台風が発生し、多くの被害をもたらす。復興策として当時の県知事国分謙吉がどう栽培をすすめる。	
1955	（昭和30年）	大迫町、内川目村、外川目村、亀ヶ森村が合併し、新しい大迫町が誕生。	
1963	（昭和38年）	岩手県内初のワイン・エーデルワイン発売。	
1965	（昭和40年）	ハヤチネウスユキソウとエーデルワイスが取り持つ縁で、オーストリアのベルンドルフ市と姉妹都市を締結。	
1976	（昭和51年）	早池峰神楽が国の重要無形民俗文化財第1号に指定される。	
1998	（平成10年）	宿場の雛まつりが始まる。	
2006	（平成18年）	花巻市、大迫町、石鳥谷町、東和町が合併し、新しい花巻市が誕生。	
2009	（平成21年）	早池峰神楽がユネスコ無形文化遺産に登録される。	
2017	（平成29年）	元和3年（1617）に大迫三町が整備されてから400年を迎える。	

大迫のあゆみ

事項

南部藩領となつた大迫は、古くから産金地であつたことから南部利直公は当時の金山開発のスペシャリスト



田中彦右衛門を大迫代官として任命し、大迫各地の金山開発を行いました。

明治時代になると葉たばこの売買で裕福であつた大迫商人達は、次に製糸産業へ転換。



大型機械を購入し、製糸工場を創業しました。

元和三年（一六七）南部利直公は、沿岸に通じる大迫の遠野街道があまりにも大きく曲がつてゐることを懸念していました。



そこで直線的な新遠野街道を整備するよう命じたのです。

また、地の利を生かした林業や馬産地としても繁栄し



旧遠野街道時代から続く九日市は、近郷近在から多くの人々が買い物に訪れました。

町づくりには、金山経営で財を成した大信田源右衛門らの力を借り



中居川沿いの道を開拓し、宿場町として整備しました。

町内に次々と料亭や旅館が開業し、中でも高級旅館として繁盛した石川旅館は



地質調査等で訪れていた宮沢賢治の常宿でもありました。

江戸時代の半ばになると「南部葉」と呼ばれる特産の葉たばこ栽培が盛んになりました。



刻みたばこの形で江戸にも出荷され、江戸の花魁達に人気があり「南部花魁煙草」と呼ばれ人気を博しました。

現在も、宿場町の面影を残し九日市や宿場の雛まつり、大迫あんどんまつりが行われています。

